



秋晴の多摩湖ウォーキング（令和3年11月28日）

## コロナ禍の校友会活動

支部長 中村 曠（昭36政経）

会員の皆様、日頃から校友会活動にご支援と協力を賜りありがとうございます。

昨年度の「定時総会」はコロナ禍の終息が見えず、年初からの感染拡大により会員の健康と安心・安全を考え、止む無く「書面総会」となりました。

これまで二年に渉り校友会の目的である「会員の親睦と交流を深める」定時総会、懇親会、各種のイベントの中止は誠に残念でした。ただ紅葉の「多摩湖ウォーキング」が十一月に実施できたこと、清瀬に戻りお蕎麦屋さんで久しぶりの懇親会は喜びでした。

清瀬地域支部の上部組織「多摩支部」の今年度の定時総会は中止となります。校友会活動は「With コロナ」「After コロナ」に向けて活動を模索しています。

年初に東京都五支部共催の「明治大学発祥の地記念式典」は参加者制限によりオンライン中継で行われました。

嬉しいニュースもありました。北京冬季五輪のフィギュアスケート団体戦で樋口新葉（商学部二年）さんが出場し、見事銅メダルに輝きました。

当地域支部の「会報」の「校友訪問」にコロナ禍で頑張っている校友を紹介しています。会員にプラスになる情報になれば幸いです。もう少しの我慢と辛抱です。コロナ禍の終息を願い、清瀬地域支部のイベントが実施され、皆様と再会できる喜びを楽しみにしています。

## 令和三年度の活動及び今後の活動

幹事長 粕川 偉三男(昭48政経)

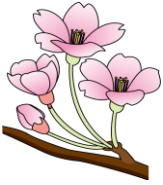
昨年度の定時総会は一昨年到现在「書面総会」となり  
ました。校友の安全を優先した結果ですが、二年連続の  
「書面総会」は残念でなりません。

各イベントの中止が余儀なくされる中、十一月下旬に  
は恒例の「多摩湖ウォーキング」を開催する事が出来ま  
した。感染者数は二桁台と減少傾向の中、このイベント  
を楽しみにされていらつしやる一般参加の方六名、国分  
寺地域支部から一名、校友会から六名の合計十三名で晩  
秋の多摩湖のウォーキングを楽しみました。

いずれの校友会でもコロナ禍で行動が制限され、運営  
には苦慮している同様の悩みがあります。我々も年一回  
の会報だけではなく、折に触れた便り等出したらどうか  
との意見もあります。心と心が触れ合えるような便りを出  
せるようアイデアを出して行きたいと考えております。  
どしどしアイデアを戴けるようお願い致します。

我々の上部組織である多摩支部は来年設立二十年を迎  
えるにあたり、多摩地域で活躍されていらつしやる自営  
業の方々の「多摩版タウンページ」を企画しています。  
昨年の「グルメマップ」に続く企画であり、校友とのコ  
ミュニケーションの場となると思います。当清瀬地域支  
部の和田さんは「書道教室」を計画されており「多摩版  
タウンページ」に掲載することを案内したいと考えて  
おります。

「地域密着型校友会」を更に充実してまいりたいと思  
います。会員皆様のご協力、ご支援の程宜しくお願いを  
申し上げます。



## 私の「スローライフ」な生き方

永代 達三(昭48政経)

私が「スローライフ」について考え始めたのは、七十  
歳を超え、昨年八月に仕事を任期満了退職を迎え、定年  
後の生活をどう過ごしていこうかと考えてからでした。そ  
れまでの駅までバス又は自転車、満員電車を乗り継ぎ、  
一時間半をかけた職場へと生活が五十年近く続けてき  
ました。加齢もあり、いささか疲れしましたし、自分自身  
の時間があまりにも少なかったことに気がつき、もう少  
し自分自身の時間を大切にしたいと考えた事によります。  
しかし、定年後の生活については、明確な計画があつ  
たわけではなく、仕事をやり終えた感が強く、まずは夫  
婦でゆっくり旅行を楽しみながら今後の生活を考えたい  
と思っていました。ところが一昨年からのコロナウイル  
ス感染症により、旅行や友人との飲食など行動の制限が  
大きくなってしまい、夫婦二人で自宅にいる時間が増え  
てしまいました。ある意味では意図せず「スローライフ」  
になってしまいました。

『「スローライフ」とは「時間に追われずに、余裕をも  
つて人生を楽しむ」という概念、あるいはこの概念に  
沿った生活様式』をさす。slow life は和製英語。大  
量生産・大量消費社会やモータリゼーション社会への  
反省から生まれた考え方で、環境問題と関連づけられ  
て論じられることが多い。\* 出典(日本大百科全書)  
まず、身の回りの毎日の生活の見直しから始めようと  
思い、ほぼ毎年買っていたスーツ、靴等の身の回りの衣  
類の買い控え、退職に伴う飲み会の縮小などによる生活  
様式の変化。家は既に5年前建替時にオール電化の省  
エネ住宅を目指しました。朝晩の犬の散歩を日課とし、  
夫婦共に健康で、やりたいことを見つけて積極性を失わ  
ず取り組みたいと思っています。まずは新型コロナウイルス感  
染症の終息、夫婦で国内旅行をゆっくり楽しむこと。時間  
はたっぷりあります。

## 第九回多摩湖ウォーキングに参加して

福本 徳昭(昭54工)

令和三年十一月二十八日、快晴の中、多摩湖ウォーキ  
ングに参加させて頂きました。

総数十三名男性九名女性四名で途中綺麗な紅葉が見ら  
れ、心地良いウォーキングでした。集合時間に遅れたの  
で、どうなることか心配しましたが、福島さん、粕川さ  
んのフォローで無事に参加できました。ありがとうございます。

歩きながら、紅葉の話、オレオレ詐欺の話をしたり大  
変楽しくウォーキングを楽しませてもらいました。途中  
でコース変更された方もいましたが全員がゴールの駅前  
で落ち会え嬉しかったです。



明治大学  
といえばマ  
ンドリンで  
すが、趣味  
でやってる  
ウクレレの  
話しを帰る  
の電車の中  
でしたら、  
中村支部長  
が私もやり  
たいってい  
うことでウ  
クレレ仲間  
ができました。  
た。

校友会な  
らではと感  
謝です。これからも皆さん宜しくお願いします。

私の趣味シリーズ③

ウクレレに挑戦

中村 曠 (昭36政経)

若くてまだ社会人成りたての頃「君の趣味は？」に思わず「旅行です」。実は趣味など一つもありませんでした。ゆとりもありませんでした。休日には先輩と西部劇映画を見たり、夏は山、冬はスキーに行くくらいでした。



三十代の私の退社後は居酒屋、バー、ビアホール通い、帰宅は深夜が習慣になっていました。若い社員から「これでは結婚もできない」と不満を耳にしました。五十才を過ぎ、定年が近づき、将来の生活を考えるようになり「近所さんから紙と鉛筆があれば」と「絵画」を勧められ、子供の使った絵道具を持ち出し絵画教室に入ったのが趣味創りの始まりで、画用紙に向かっている時間が心地よく感じたのです。「絵画」のことは後日、機会があればお話しします。

年齢と共に暇もでき、初めて懂れていたハワイに行きました。スケッチブックをバッグに意気揚々と出かけました。ハワイ到着ロビーでムームーの若い女性からレイを掛けられフラダンスの歓迎を受けすっかり浮かれてしまいました。ムツとする暖かい風に乗って軽快なリズムと音色に惹かれたのがウクレレとの出会いです。アロハタワー楽器屋に飛び込み買ってしまっただのが今のウクレレです。

帰国後、池袋西武百貨店のカルチャーで「やさしいウクレレ教室」を知り通い始めました。ハワイアンブームもあってウクレレ教室は何処も生徒で溢れていました。小ぶりで持ち運びも簡単、楽器の持ち方、音の出し方、簡単なコードの童謡、流行歌などを皆で歌いながら練習しました。それから二十余年、昨年暮れ「多摩湖ウオーキング」に参加、帰りの電車の車中で校友の福本さんから「ウクレレの発表会」をyoutubeで見せてもらってビックリ。ウクレレでメロディーを演奏しているのです。

「目から鱗」楽しく演奏する画像に引きつけられ、思わず入会希望、福本さんの計らいで入れてもらいました。埃のかぶっていたウクレレを持ち出し、教室はグリーンタウン清戸の集会場、畑中先生は校友の福本さんが活動している「清瀬の自然を守る会」の役員でもあります。最初のレッスンでは「キラキラ星」と朝ドラ「カムカムエブリボデイ」で流れている「on the sunny side of the street」の楽譜をいただきました。タブ譜初心者には「キラキラ星」が精一杯。衰えた眼でタブ譜を追いつ、弦を抑



え、弾くことは大変、仲間の演奏には譜面を目で追うのが精一杯でした。八十過ぎの爺さんが飛び込んできたのが間違っていたのかと反省しましたが、優しく暖かく迎えてくれた仲間のおかげで練習に励んでいます。ウクレレ演奏は年寄の指と頭の体操に、またボケ防止にも繋がっているのではないのでしょうか。女性に囲まれ月二回のレッスンは楽しくあつという間の二時間です。レッスンの連絡はラインです。「清瀬の自然を守る会」が育成管理の柳瀬川添いの河津桜の開花の知らせがあり、先生からは「さくら」を徹底的に練習しようとの連絡です。さあ練習だ！「きんきんキラキラ・・・」

特別寄稿

小三治師匠を偲んで

福島 寛 (昭37政経)

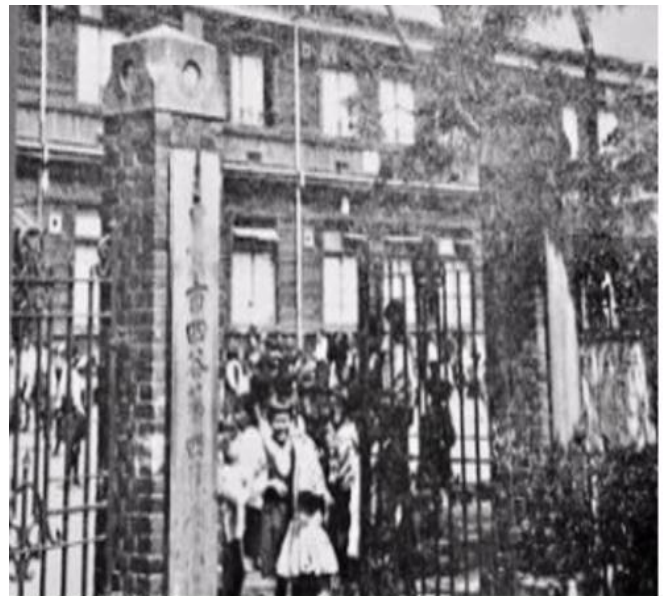
落語界の重鎮、十代目柳家小三治が昨年十月七日に心不全のため亡くなられました。



私と小三治（本名郡山剛蔵・敬称略）は、四谷第四小学校では同じクラスでした。個人的に親しく付き合ったわけではありませんが、彼はその頃からクラスの中でもひと際目立つやんちゃ坊主でした。お父さんが同時期に同校の教頭（後に校長）をしていたので、他の生徒も少し遠慮していたのかも知れません。自由奔放に廊下を走り回っていたのを記憶しております。また、顔つきは親の教頭先生にそっくりな四角い人懐っこい顔が想い出されます。

話は変わりますが、最近になって知ったのですが、我が地域支部の中村支部長の奥様も四谷第四小学校のご出身で、私より二学年上とのことですので、同じ時期に在籍し同じ郡山教頭の元で勉強していたのです。不思議な縁で驚きました。もしかしたら校内や町内で顔を合わせていたかもしれません。

さて、小三治の話に戻りますが、小三治の落語は私は



旧四谷第四小学校

一度だけ友人と聞きに行ったことがあります。その本題に入る前の、のらりくらりとしたとぼけた客への語りかけに、思わず「剛蔵（たけぞう）頑張れ！」



と一声掛けてしまいそうになりました。しかし、もしも後から「今声を掛けた人、後から楽屋に来て！」などと言われても恥ずかしいので止めておきました。「マクラの小三治」と言われるだけあって、人を嘯の中に惹きつけるものがありますね。会場は満席で万雷の拍手のうちに幕が下りました。

小三治は二〇一〇年に落語協会の会長となり、随分出世したなど思っていたら、あれよあれよという間に、二〇一四年には人間国宝になってしまいました。恐れ入りました。

しかし私はふと思うのですが、もし生前に先代柳家小三治を襲名していれば、人間国宝にまでは選ばれていなかったのでは？と思うのです。既に小三治師匠は人間国宝になっていましたからね。勝手な私見ですが、あのとぼけた語り口の中に先見の明があり、彼の個性を活かし、名より実を取ったのではないのでしょうか？と勝手に妄想しております。それにしても、少し早すぎた旅立ちだったと残念に思っております。

小三治の嘯に「短命」というのがありますので・・・

小三治の「短命」月夜の一閃

ご冥福をお祈りいたします。 合掌



小三治逝く！

校友訪問 ②

清瀬シルバー人材センターの中川原さんを訪ねて

二月中旬、清瀬北口第二駐輪場で管理業務をされている中川原正昭(昭46政経)さんをお尋ねしました。中川原さんは東京のご出身、卒業後は銀行に勤務され、昭和四十五年頃清瀬に移られ、その後東久留米に十年、その後転勤でロサンゼルスに三年程住まわれた後に再び清瀬に戻られたとの事です。

海外勤務の経験があり、趣味は絵画で時折筆を持ち、現在は蕎麦打ちに凝って、日本各地のそば粉を取り寄せて手打ちを楽しまれているそうです。機会があれば是非ご相伴に預かりたいですね！

定年退職後平成二十四年に清瀬シルバー人材センター



に入会されて市営駐輪場の運営管理に従事されています。朝六時半から十時半までの勤務が多く、冬場は大変ですが駐輪場を利用される方々が気持ちよく利用していただく為に場内の整理・整頓はもとより接客にも常に気を配られています。

です。又運営管理に併せて七年前から監事として毎月の

理事会に参加され、期中と期末に各々業務監査・会計監査を実施し現在に至っていらつしやるとの事です。

幅広いご趣味、暖かな接客業務、各監査業務と熱く明大魂を遺憾なく発揮されていらつしやるお姿は若々しい限りです。

今後とも校友会発展の為に力添えをいただきたいと思えます。(粕川記)

フォト・エッセイシリーズ ⑨

清瀬その六

粕川偉三男(昭48政経)

二年に渡る新型コロナウイルスの猛威により、日常生活が激変しました。普通の生活がどうだったのか忘れてしまいそうです。

令和三年が静かに暮れる夜の風景をスナップしてみました。南口の蕎麦店で年越しそばと熱燗で一杯。南口駅前前はスーパーの照明が煌々と光っていましたが人通りは



清瀬駅南口の蕎麦店

少なく、北口は更に人通りが少なく、より寂しさがつりました。帰宅途中に立ち寄った水天宮では二年参りの参拝者を待つ露天商の準備がすつか

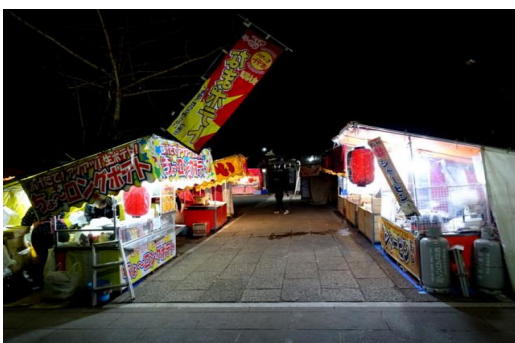
り整っていました。

昨年末の東京の感染患者数は二桁(七十八人)オミクロンが騒がれ始めた頃と記憶しておりますが、二月末現在では五桁(二万人強)となり、本会報が校友の皆様の手元に届く頃は予想が出来ません。

皆様から清瀬の撮影ポイントを(紹介)ください。記憶に留めておきたいと思えます。



清瀬駅南口



水天宮の露天



清瀬駅北口

## 金山調節池と緑地公園を散策

中村 曠(昭36政経)

金山緑地公園は市内では最も大きな緑地公園です。昭和六十一年五月にオープンして以来、四季を通じて市民の



皆さんの憩いの場として親しまれていきます。

会報ではこれまで「野鳥観察会」「夏休み昆虫観察会」など紹介してきました。校友の福島さんの奥様が会員の「清瀬の自然を守る会」が主催し、明大校友会清瀬地域支部が賛助参加してきました。

コロナ禍の中、外出自粛などで運動不足解消のウォーキングとして紹介したいと思います。

柳瀬川に架かる「金山橋」

を渡ると右側に「金山調節池」左側に「金山緑地公園」があります。右側の「金山調節池」は柳瀬川の水量の調節を目的に作られ、河川が増水すると自然に水が調節池に入り氾濫を防ぐ役目を持っています。湿地帯をめぐる板張りの遊歩道の両側は豊かな水の流れに多くの湿性植物、メダカなど小魚など小動物が年間を通して見ることが出来ます。遊歩道を進むと鑑賞池があります。池の中央に小さな島が作られていて、この島にシラサギ、ダイサギ、東京では数少ないカワセミが生息しています。多くの愛鳥家や写真家が集う探鳥池になっています。池には鴨、カイツブリが泳ぎ、小魚を捕食するヨサギが見られます。水中にはメダカその他ザリガニが生息しています。池、湿地、そして豊かな湧水に恵まれ、多くの湿性植物、良好な湿地性体系が形成されています。外周の遊歩道から階段を上がったところには農家の無人小屋で新鮮な野菜を手に入れることも出来ます。外周を行くと右側に二階建ての民家の屋根にダイサギ一羽が木の如く溜っています。



桜並木を抜けると駐車場と車道にぶつかり道を渡ると「金山緑地公園」です。

石畳が池を取り巻き、石橋を渡ると左の池の畔には清瀬市政三十周年を記念して植えられた福島県三春の滝桜の苗木も、お花見シーズンには家族や絵を描く人たちでにぎわっています。



回廊散策・せせらぎコースの一部です。

中央の大池にはホルガモ、亀がいます。途中に時計台をみて進むと湧水の小川があり、螢の幼虫を保護育成、夏には「蛍狩り」が行われています。さらに林の小道を行くと公園の西の端、通り抜けて柳瀬川を上流に歩きます。遊歩道の右手には紅白の梅の木があり、ベンチも置かれています。さらに進み「松柳橋」を渡り上流の左側に「中里地域センター」があります。手前には「河津桜」の赤く愛らしい花が出迎えてくれます。「松柳橋」を左折し柳瀬川の下流に歩くとゴールの「金山橋」です。ご紹介した散歩コースは清瀬市発行「きよせウォーキング・マップ」の「柳瀬川

石田波郷俳句大会のこれから

大山 恭子(昭45文)



石田波郷は、人間探求派として秀句を残した昭和の俳人です。十九歳で、水原秋櫻子を頼って四国松山から上京し、明治大学文芸科に進み(のち中退)、この間、清冽、繊細な青春俳句を詠んでいます。その後、昭和二十三年から入院した清瀬市の東京療養所(現在の国立病院機構東京病院)で加療中にまとめた句集『惜命』は『療養俳句の金字塔』と言われています。

清瀬市では、石田波郷が清瀬を終焉の地として没後四十年にあたる平成二十一年、大人から子どもまで市民が俳句に親しむことよって、自然の豊かさ大切さを再認識し、それらを次代へ伝えていく契機となることを願い、また、この昭和を代表する俳人を顕彰するために「石田波郷俳句大会」を創設しました。

大会を運営する実行委員会は、当初、清瀬市生涯学習スポーツ課、俳壇関係者、教職関係者、社会教育委員、清瀬稲門会で構成されていましたが、第五回大会から明大校友会清瀬地域支部の校友が実行委員・サポーターとして加わりました。

大会は、一般の部、新人賞の部、ジュニアの部として作品を募集



石田波郷俳句大会ジュニアの部表彰式

し、ジュニアの部の活動の一端として実行委員並びにサポーターで行われている「俳句出前授業」は、清瀬市の小中学生の国語教育・情操教育に貢献しています。

また、毎回、才能あふれる俳人を選出している新人賞は、全国的に知られるところとなり「俳壇の芥川賞」と呼ばれるまでになりました。

昨年、第十三回を迎えた大会ですが、ジュニアの部、新人賞の部とも年々応募数も増え盛んになってきているのに較べ、一般の部の応募は頭打ちになってきました。それに加えて、実行委員の高齢化や減少化でマンパワーが不足し、残念ながら、今年の第十四回大会は一般の部の募集を休止することになりました。

今後の課題として、一般の部の募集に代わる活動(例えば、一般市民を対象にした吟行句会、俳句実作教室などの創出や宣伝、実行委員やボランティアの募集などに力を注がなければなりません。

校友の皆さん、清瀬市を自然と文化にあふれ、子どもたちがより誇りを持てる郷土とするために、実行委員やサポーターとして、また、周囲の人にもこの活動を宣伝し、参加していただけるように働きかけていただきたいと思えます。

※大山恭子(俳号 細見道子)さんは「石田波郷俳句大会」の実行副委員長、「紫紺句会」講師です。

【紫紺俳壇】

紫紺句会指導

俳句結社「隗」 主宰 細見 道子

秩父嶺の青きに薄ら春の雪



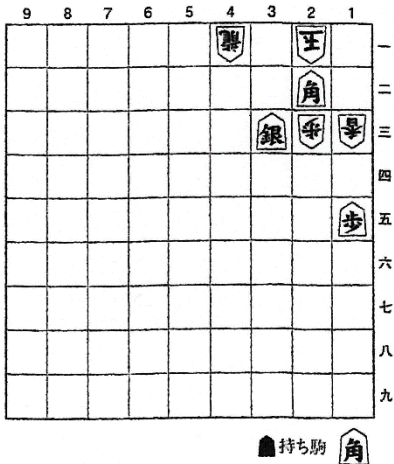
紫紺句会

みどり児の目覚めのあくび春浅し  
五年後の未来を想ひ初日記  
少女らの奏でるマーチ明けの春  
口ずさむ演歌ののりに春の色  
初雪や靴底紋様向かひ合ふ  
夙や生家に一人兄お在す  
煤払ひ遺影の妻にご挨拶  
酒交はず昔を偲ぶ冬の雨  
春の色絵のある町の喫茶店  
ウィルスに似て女関の花人手  
餅焼くや郷のかをりのくるみだれ  
密やかに路傍を濡らす時雨かな  
子守歌は煙草のほひ雪しんしん

穴田 作道  
永代 達三  
粕川偉三男  
粕谷彌太郎  
小林 信夫  
佐藤 房夫  
島崎 光  
中西 宣一  
中村 曠  
西尾 修一  
榎谷 榮吾  
村野 良明  
山尾久美子

チャレンジ!

詰将棋(五手詰) 解答は次頁



### 詰将棋解答

- 1二角    □ 同 玉
- 1三角成   □ 同 玉
- 1四香   まで5手詰



### ◎ 会員募集中！

年会費    二千元

夫婦会員割引制度あり 配偶者一千元

※ 入会初年度は無料です。

### ◎ 会費納入のお願い！

本会報は皆様の会費で制作しています。

### 訃 報

#### 故松尾武司様 (昭34商)

令和四年二月五日にご逝去されました

校友会清瀬地域支部設立にご尽力いただき 発足

後は会計監事として貢献されました

ご生前の功績を偲び謹んで哀悼の意を表します

#### 故今井啓美様 (昭38法)

令和四年三月十一日にご逝去されました

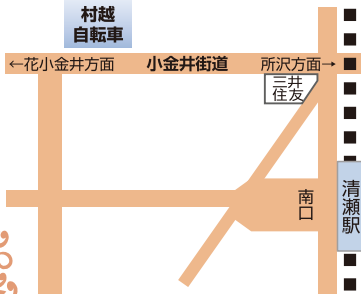
校友会発足時から今井康之前支部長とご一緒に

ゲートボール指導などに寄与されました

ご生前に受けたご恩を偲び哀悼の意を表します

## あなたの街の 村越自転車

〒204-0022  
清瀬市松山2-3-3  
Tel 042-491-0349  
村越 勝重 (S50工)



NPO法人

健康遊技たんぽぽ

○健康麻雀

午前の部	10:00~13:00	500円
午後の部	13:30~16:30	500円
一日の部	10:00~16:30	1,000円

\*入会金...1,000円  
\*年会費...2,000円  
☆セットのお客さま大歓迎(要予約)

清瀬駅南口から徒歩1分  
清瀬市松山1-11-17 杉田ビル2階  
☎042-495-7708

# 書

## 書を楽しみま書

基本を学び、またそこから一步踏み出した自分の書を楽しみま書！

「梅理庵書道教室(和田素洞)」  
【教室】清瀬駅か秋津駅近く  
【日時】毎月第2・第4月曜日午後

和田 寿文 (S49法)  
清瀬市梅園3-3-47  
bairian510195@gmail.com  
TEL042-495-3349

まずはお気軽にお問合せください

### ◎ 清瀬地域支部の情報！

清瀬のホームページで！

<https://meiji-3.jimdofree.com/>



### ◎ ご投稿大歓迎！

みんなで創ろう「会報」！

趣味・エッセイ・川柳など  
応募は「清瀬紫紺ネット」

[kiyose-event@meiji-tama.net](mailto:kiyose-event@meiji-tama.net)

### POSターミナルの導入・開発支援など

## 有限会社 マイテック

粕谷彌太郎 (S28政経)

### 本店

〒204-0022 清瀬市松山1-27-1

Tel042-492-0611 Fax 042-495-8357

### 本社事務所

〒113-0033 文京区本郷2-40-7

YG30ビル 6F

Tel 03-3813-7761 Fax 03-3813-7763

URL <http://www.a-mytech.co.jp/>



ポスター  
パンフレット  
会誌・自分誌など



環境にやさしい

## (有)スガハラ印刷

〒204-0022  
東京都清瀬市松山2-7-14  
TEL 042-492-2210  
FAX 042-491-8118

E-mail :  
sugahara@sugahara-p.co.jp